

# 令和五年度 奈良県知事賞

## 私を支え続ける税金

高田商業高等学校 一年 川本 秦菜

私は中学一年生の時に、突然学校に行けなくなりました。最初は頭痛から始まり、特に朝がひどいためベッドから起きることができなくなりました。それでも必死に起きようと努力しましたが、夕方にしか起きることができませんでした。心配した母は私を病院に連れて行きました。そして、医師は母に「決してなまけ病ではないので、お子さんを責めないでください。本人が一番つらいと思います。」と言いました。私の血圧は常に百未満であることがわかり、「起立性調節障害」と診断されました。その日の夜から投薬治療が開始され、血圧を上昇させる内服薬を一日二回服用することになり、今年の春、高校に進学することができました。

私の病院の受診料と薬剤費は、市の子ども医療費助成制度が負担してくれます。この子ども医療助成制度は、十五歳までが対象でしたが、今年から子育て世代の経済的負担を軽減するために、十八歳まで拡大されました。そして子ども医療費の財源は税金です。日本には国民皆保険制度が適用されており、国民は原則的に何らかの保険制度に加入して保険料を支払っていますが、保険料だけでは賄いきれない部分もあるため、税が包括的に使われているのです。私の病気は、税金によって支えられていることがわかりました。

しかし、世間の税金に対するイメージはまだまだ悪く、お金をとられてしまうと認識しがちです。昨年、父が新型コロナウイルスに感染し、新型コロナウイルス感染者療養施設に入所し、手厚い看護を受けられたことや、祖父の体の自由が利かなくなり、デイサービス等の福祉サービスを受けられ心身機能の維持ができていないこと、それらの運営が税金で賄われていると知ってから、私の税金に対するイメージも変化しました。

税金の使い道は多岐にわたりますが、私の身近なところでも使われており、国民の生活を支えてくれる大変ありがたいものです。この経験から、将来は税務署で勤務したいと考えるようになりました。税金に対するマイナスのイメージを払拭できるように、税に関する教育活動を行い、少しでも多くの滞納者を減らし、みんなで支えあえる世の中にしたいと思います。